

帝キネ芦屋現代映畫

原作並脚色者
監督者
撮影者
主演者

高木英雄氏
大森勝氏
岡本靜夫氏
濱田格氏

紹介
震災をからませてある所などは利巧だ。然しそうでなかつたら隨分馬鹿氣な物である。然しそうした馬鹿氣な材題を巧みにこなして帝キネのお客様の御氣嫌な伺ふ通りは正に帝キネの脚色者や監督者の獨壇場と云へるだらう。高木英雄の脚色にしろ、大森勝氏の監督にしろ、そらしの點のうまさは多分に持つて居る。俳優ではこの云ふものになる。濱田格氏が光つてゐる。態とらしい良い演技もこんな喜劇になると生きてくれるから不思議だ。腰間林太郎氏の桂馬もこの人の短所を却つて役立つて居た。

山本録葉
芦屋喜劇を馬鹿々々しいなどと云
適當なものは帝キネ系の館には少い筈。添ものには
神戸相生座封切。(七月七日大阪芦邊劇場)